



## 弟子屈の魅力に触れて

100km歩こうよゝ大会in摩周・屈斜路2017



大会の様子

100km歩こうよゝ大会in摩周・屈斜路2017（同実行委員会主催）が、7月1日に開催されました。コースは川湯温泉を出発し、砂湯・コタンを超えて、道の駅摩周温泉を通過、9〇〇草原へ行き、さらに摩周湖へ登り、川湯温泉へ戻ってゴールする、タイトル通り約100キロを歩きます。今年、全国から約200人の大会参加とサポートスタッフ参加があり、弟子屈の景色を楽しみながら歩きました。今年で12回目を迎えるこの大会は、完歩が目的ではないので、小学生から大人までが参加しています。また、車椅子での参加や視覚障害者の参加もあり誰でも楽しめ、みんなで励まし合いながら歩いて行きます。昨年は暴風雨の影響で中止となりましたが、今年は晴天に恵まれ、牧草草刈りを横目に歩き、早朝は屈斜路カルデラに雲海が発生するなど弟子屈らしいイベントになりました。私も3回目の挑戦でしたが、今年も完歩できました！

（地域おこし協力隊・炭田）



校内選考会の様子

## 弟子屈の観光プラン発表

弟高3年生の全国高校観光選手権大会校内選考会

弟子屈高校（木村浩士校長）の3年生による「全国高等学校観光選手権大会校内選考会」が6月20日、弟子屈高校で行われました。同校では毎年、総合的な学習の時間で本町について学び、生徒たちが考えた観光プランを本大会に応募しています。選考会には弟子屈中学校（佐藤敬喜校長）の3年生も参加し、発表の見学・選考を行いました。8班に分かれて発表し、各班ともスライドによる説明のほか、アクションをつけて紹介するなどのさまざまな工夫がされていました。発表されたプランは「外国人が日本でやってみたくこと」などの統計データをもとに体験内容やコースを考えた。り、高速道路や空路・鉄路の状況をもとにアクセス方法を考えたりと生徒の努力が伝わる内容となっており、動画サイトやSNSの活用など高校生らしい発想も盛り込まれていました。高校生は全プラン発表後、同席した観光関係者からの講評を受け、町の観光産業についての意識をより一層深めていました。選出された上位3チームの観光プランを第9回観光甲子園本選に応募。審査の結果「北海道 アイヌ&現代」タイムスリップツアー」が公式ホームページで公開される全国上位32以内の29位に選ばれました。弟子屈高校からの上位選出は初めてのことで

### 町の話題



### 町の話題



### 町の話題

## 交通安全を呼びかけ

弟子屈町内で街頭啓発実施



野上峠の通行車両に注意を呼びかけ

同日午後には小清水町野上峠頂上駐車場で斜里警察署と弟子屈警察署が主催し「レイクビュー・セーフティドライブ391交通事故防止作戦」が行われました。観光シーズンを迎え旅行者などの交通量増大に伴い交通事故の増加が懸念されることから実施されたもの。25人が参加し「旗の波」による啓発と警察車両を配置したパトライト作戦が実施されました。



啓発品を手渡す



沿道に立ち交通滞前を訴える

7月11日には、同所で弟子屈町交通安全運動推進協議会と弟子屈交通安全協会、弟子屈警察署、弟子屈町交通安全指導委員会、町、弟子屈町女性ドライバークラブの皆さんが街頭啓発を実施。約60人が参加し手旗を振って交通安全を呼びかけたほか、警察署の協力の下通行車両に啓発品の配布を行いました。同日午後には小清水町野上峠頂上駐車場で斜里警察署と弟子屈警察署が主催し「レイクビュー・セーフティドライブ391交通事故防止作戦」が行われました。観光シーズンを迎え旅行者などの交通量増大に伴い交通事故の増加が懸念されることから実施されたもの。25人が参加し「旗の波」による啓発と警察車両を配置したパトライト作戦が実施されました。

## 援農への思いをつなぐ

援農の碑記念式



援農の碑の前で



文化センター内にある援農の碑

ちの功労を忘れず感謝していこうと1989年6月25日、かつて受け入れ農家だった方など関係者が建立。同碑前での式典は、関係者で組織する「6.25会」が中心となって毎年6月25日に行っています。先人たちが愛した「北上夜曲」に思いを込めて、参加者の斉唱が響きました。今年には関係者約16人が出席し、生徒たちの功労や苦勞に思いをはせました。

太平洋戦争中の1945（昭和20）年、北海道援農労働報国隊として本町に派遣された岩手県久慈農林学校（現久慈東高校）の生徒をたたえる「援農の碑」記念式が6月25日、摩周観光文化センター敷地内にある同碑前で行われました。同碑は、生徒た